

自転車に関わる交通事故の現状等について

1 愛知県の自転車交通事故の現状

- ・自転車の負傷者数は6歳から上昇を始め、15～18歳が突出して多く、死者数は65歳以上から多くなり、70歳以上が特に多い。(図1)

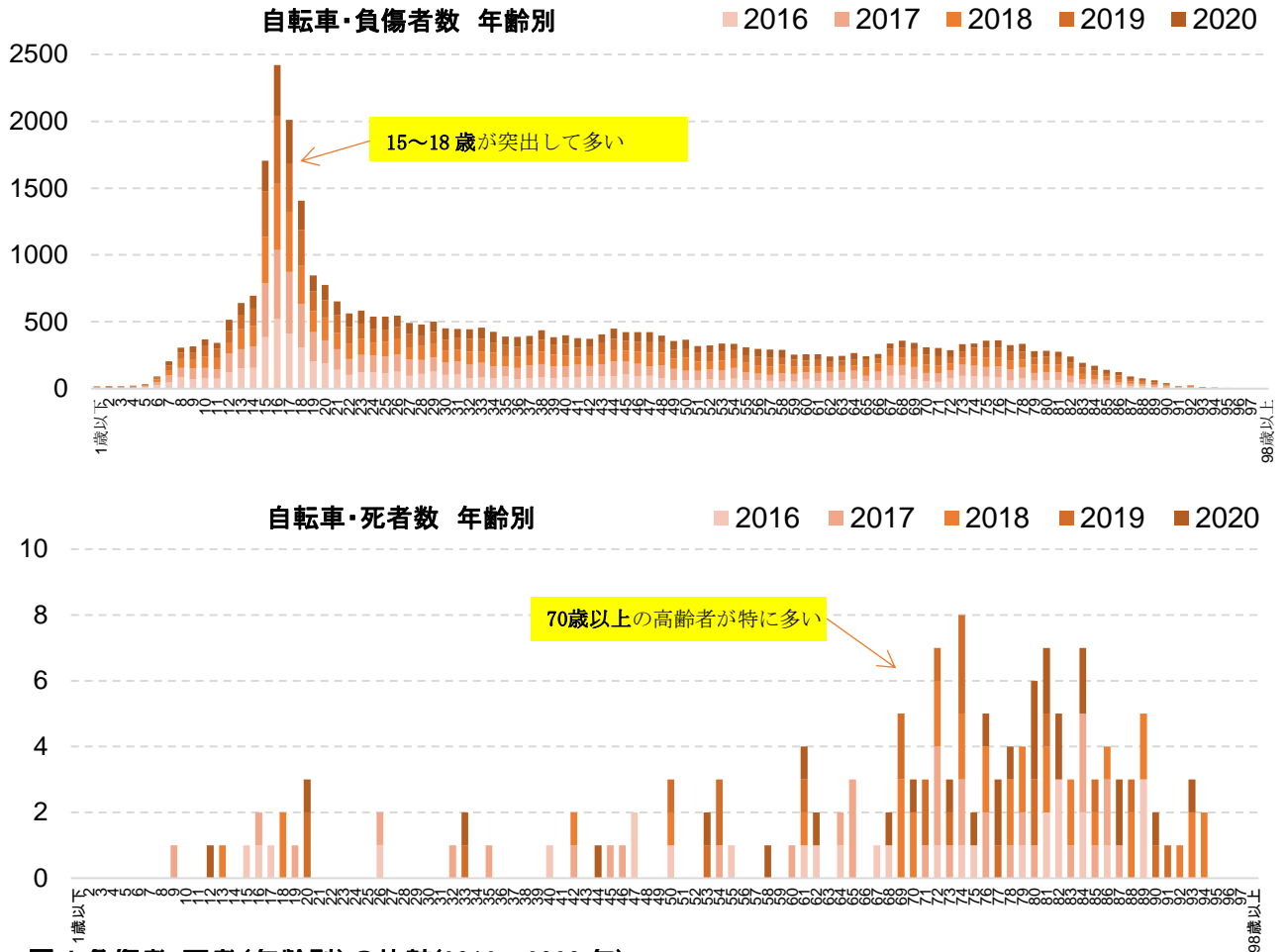


図1 負傷者・死者(年齢別)の比較(2016～2020年)

- ・自転車の負傷者数(2015～2019年)を年齢別・時間帯で比べると、6～12歳は15～17時が多く、13～15歳及び16～24歳は7～8時が特に多く16～18時も多い。65歳以上は9～11時が多い。(図2)

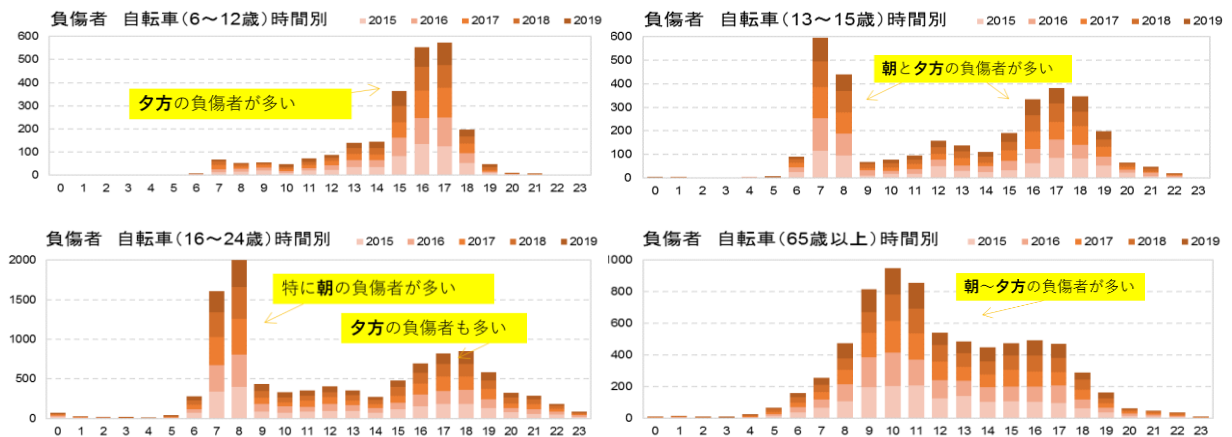


図2 負傷者数(年齢別・時間帯別)の比較(2015～2019年)

- ・自転車の死者数(2015～2019年)を年齢別・時間帯で比べると、死者数の特に多い70～79歳では10時台と18時台が多く、80歳以上は10時台が最も多い。(図3)

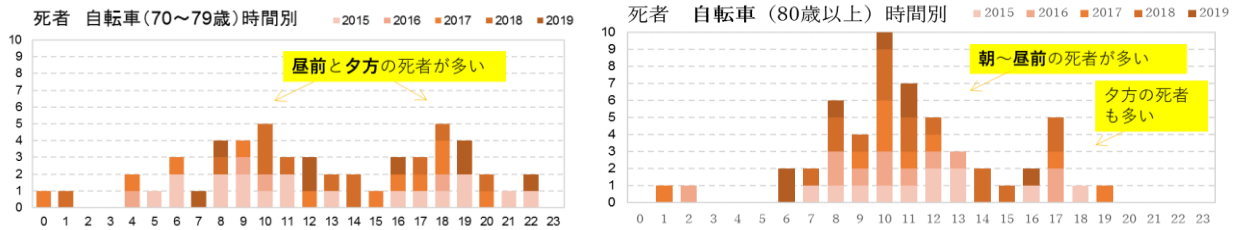


図3 死者数(年齢別・時間帯別)の比較(2015～2019年)

- ・自転車の死者側になんらかの法令違反がある割合は約8割(82.5%)であり、高齢者ではさらに高く約9割(87.7%)を占める。(図4)

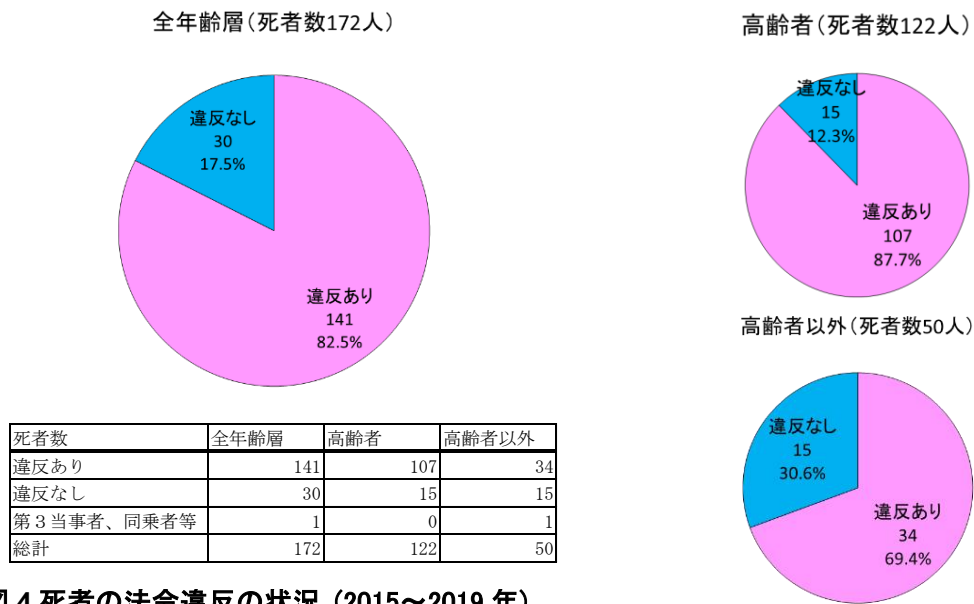


図4 死者の法令違反の状況(2015～2019年)

- ・自転車の負傷者の法令違反では、安全不確認・動静不注視に加え、一時不停止が多い。
- ・自転車の死者の法令違反では、信号無視、横断転回後退、一時不停止が多い。(図5)

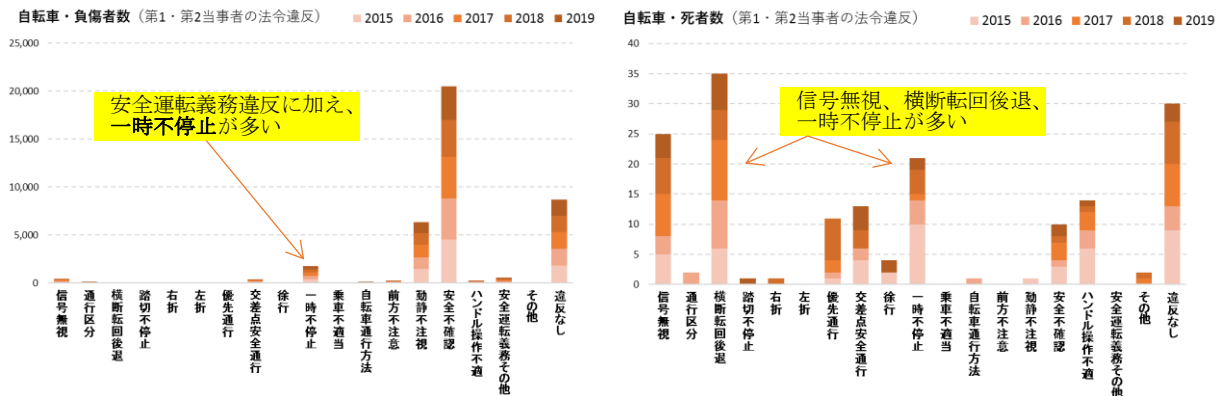


図5 負傷者数・死者数(第1・第2当事者の法令違反別)の比較(2015～2019年)

・自転車の負傷者数(2015～2019年)を年齢別・法令違反別で比べると、24歳以下の子供・若者は、他の年代に比べ一時不停止が多い。(図6)

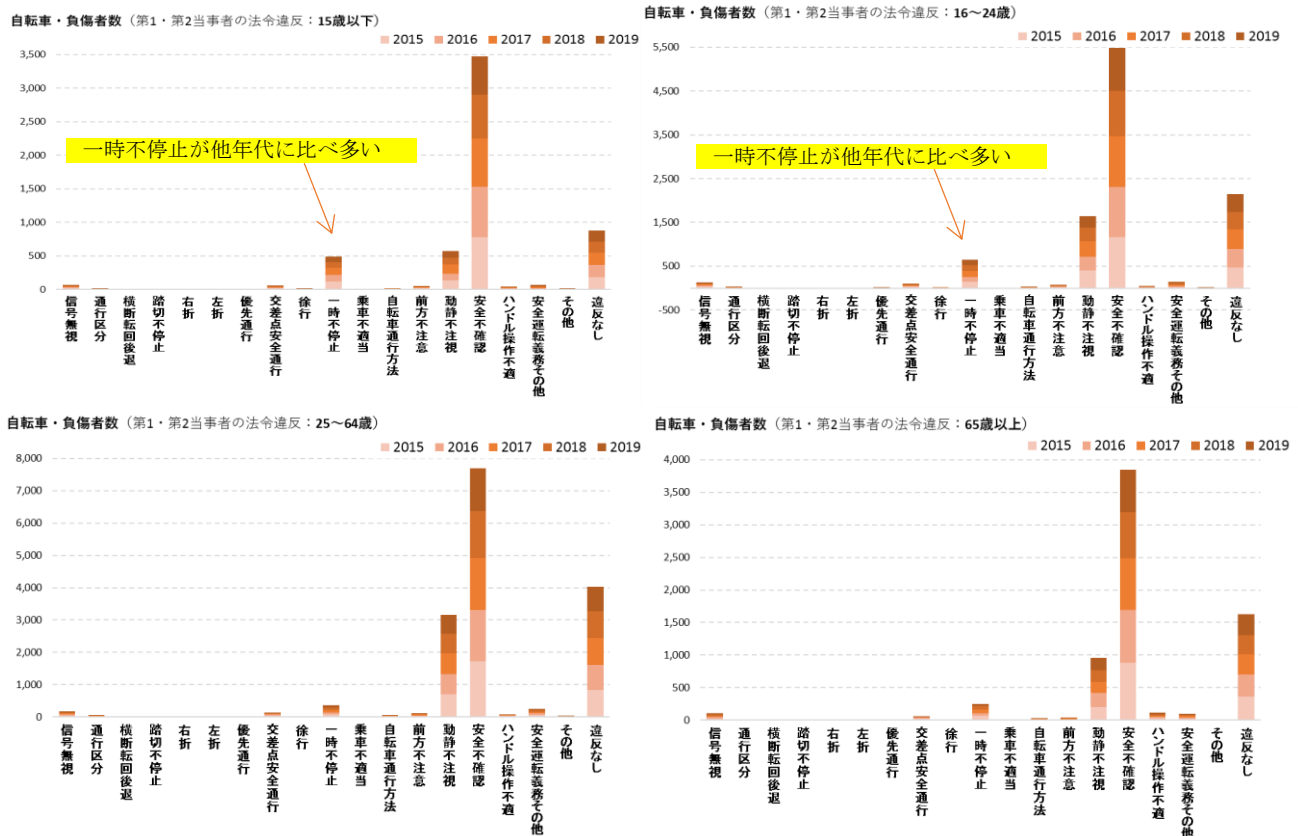


図6 負傷者数(第1・第2当事者の法令違反別・年齢別)の比較(2015～2019年)

・自転車の死者数(2015～2019年)を年齢別・法令違反別で比べると、65歳以上の高齢者は、他の年代に比べ横断転回後退の違反が多い。(図7)

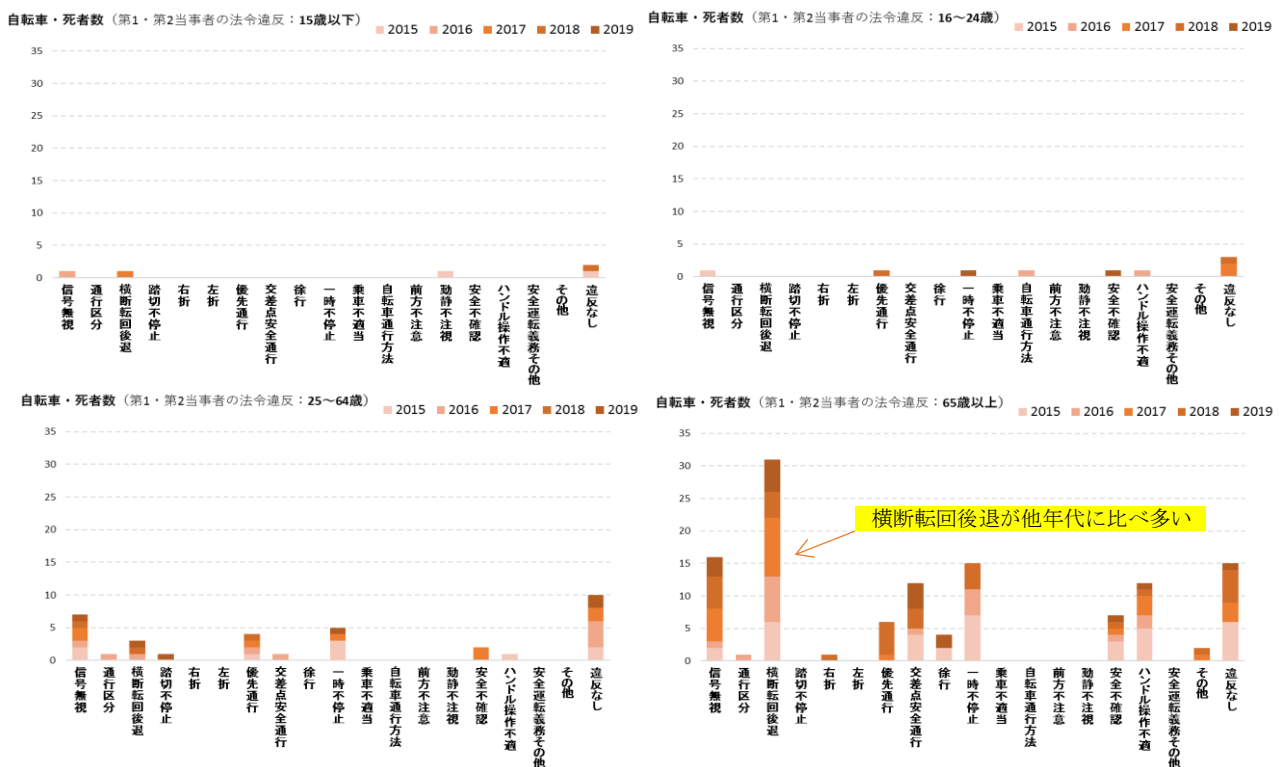


図7 死者数(第1・第2当事者の法令違反別・年齢別)の比較(2015～2019年)

- ・自転車の死者の9割以上(97.7%)がヘルメット非着用で、負傷主部位は、頭部が約7割(67.4%)(図8)

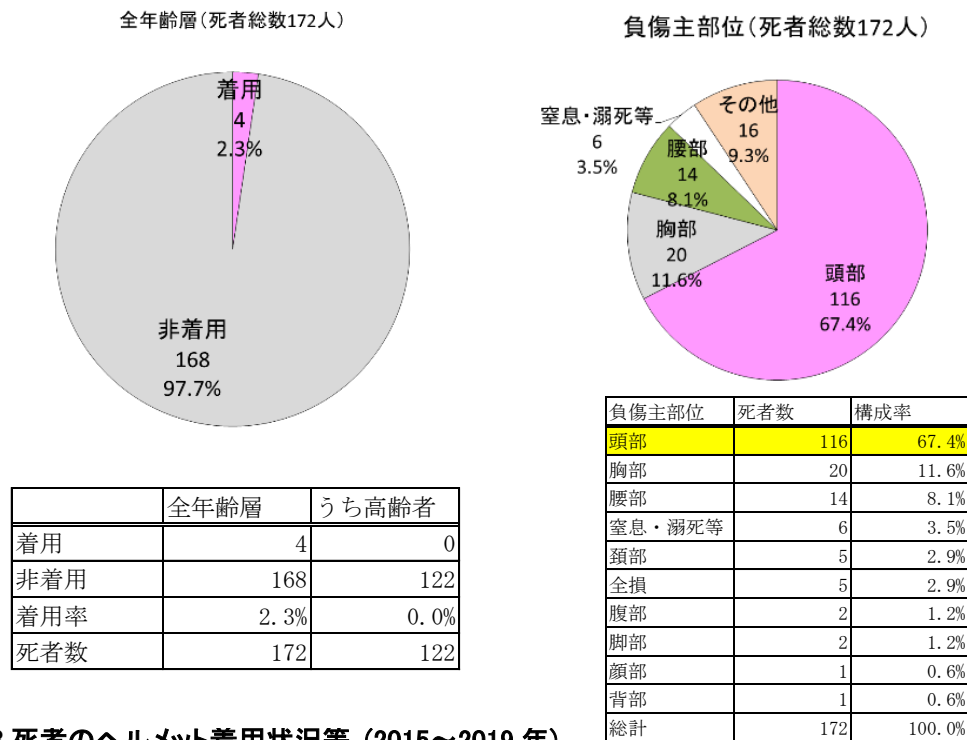


図8 死者のヘルメット着用状況等(2015~2019年)

2 県政世論調査結果(自転車の安全利用について)【参考資料4】

※自転車条例制定以前の2019年に、18歳以上の県民を対象に実施

(1) 自転車の利用頻度・目的

- ・県政世論調査回答者のうち自転車利用者は39%であることから、県民の約4割が自転車を利用していると推測される。(図9)

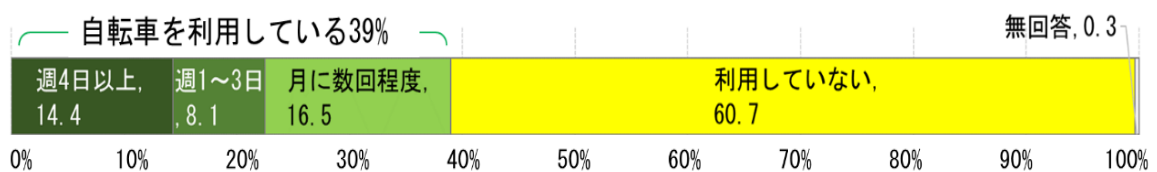


図9 県政世論調査結果(自転車の利用状況)

- ・自転車利用者の自転車の主な利用目的は、買物など近所への用事が46.3%、通勤・通学が29.0%。(図10)

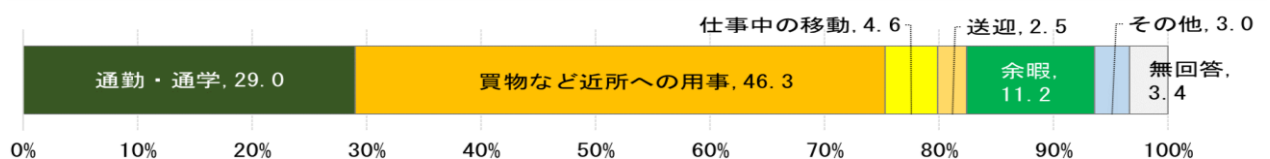


図10 県政世論調査結果(自転車の利用目的)

(2) ヘルメットの着用

- ・県内の自転車利用者のうち 94%がヘルメットを着用していないと回答。
- ・ヘルメットの着用条件では「条例等で着用が義務付けられたら」が最も多い。(図 11)

問 今後どのような条件が整えば、普段からヘルメットを着用してもよいと思いますか。(〇は複数可)

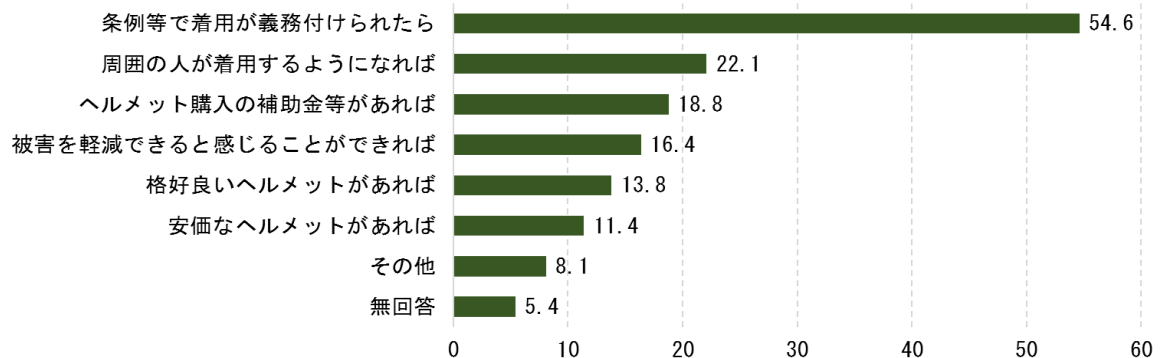


図 11 県政世論調査(ヘルメットの着用条件)

(3) 自転車損害賠償責任保険等の加入

- ・自転車損害賠償責任保険等(以下「自転車保険等」)の加入は 36.7%、未加入は 37.3%。
- ・自転車保険に加入しない理由は、「条例等で加入が義務付けられていないから」と答えた人の割合が 11.9%と最も高く、続いて「自転車保険に加入する必要性を感じていないから」(11.7%)、「自転車保険についてよく知らないから」(9.9%)の順となっている。(図 12)

問 あなたが自転車保険に加入しない理由はなんですか。(〇は複数可)

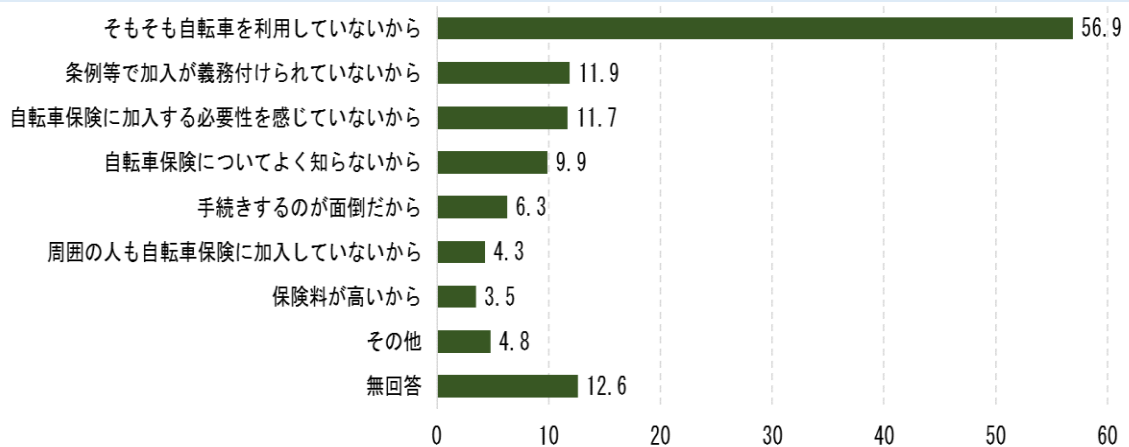


図 12 県政世論調査(自転車保険に加入しない理由)